



まさかず
かくま正一通信
(No.16)

ごあいさつ

皆様こんにちは。平素よりご指導、ご鞭撻を賜り心からお礼申し上げます。

4月の選挙から早6カ月経ちました。現在、議会運営委員長として、活発で充実した議論が県議会で展開されるよう努めております。

さて、3月11日に起きた東日本大震災と原発重大事故は、地元被災地の深刻極まる状況に加えて全国に様々な問題を突きつけております。富山県においても、①原発事故対策（隣の石川県に志賀原発あり）を含む防災・津波対策の全面的な見直し、②小水力発電等の新エネルギー対策の推進等が急務の課題となっております。同時に、震災後の富山県は、企業立地や農産物供給地として日本における役割がより大きくなると考えます。また、太平洋側の代替機能を果たすため、改めて日本海国土軸の形成と北陸新幹線の早期全線整備の必要性がクローズアップされました。

ところで、野田新政権が発足しました。日本の政治はここ3カ月間、菅前総理が自らの退陣のため示した3条件に振り回されるという異常な事態が続きました。私達は今、地に足をつけた活動を通し、実績を一つ一つ積み重ね、来たるべき時に政権奪還をしなければなりません。

特に、地域住民の足である並行在来線や安心の要である医療の充実にきちんと政治の結果を残すことが大事であります。

何卒、皆様の温かいご指導と力強い叱咤激励を賜りますよう心からお願い申し上げます。

富山県議会議員

鹿熊 正一

議会運営委員会は、正メンバーとして自民党6人、民主党・県民クラブ2人、オブザーバーとして社民党、共産党、公明党から各1人、計11人で構成しております。



活動の一端 ―議会において、自民党において、地元において― を掲載いたします。私の活動の根本は、現場で学び、研鑽を深め、県民のための政策を打ち出し実現することです。

新しい総合計画に係る意見交換会

私は、4点の意見を述べた。

- ① 隣県、他県との広域行政を推進する視点が欠けている。富山県一県で、「富山から日本を変える」ことは出来ない。
- ② 「農山漁村の活性化」は今現在の課題である。「未来とやま」の政策柱ではなく、「快適で活力ある魅力的なまちづくり」や「中心市街地の賑わい創出」と同様に「活力とやま」の政策柱に位置づけるべきだ。
- ③ ふるさと教育と併せて「国を思う心」の醸成が是非必要である。中国、韓国、ロシアの領土に対する強い態度を見るにつけ、小さい時から、日本の領土に対する理解や主権意識を養うことが極めて重要だ。
- ④ 有害鳥獣対策は、「安心とやま」の政策柱の中で、正面から取り上げるべき。現計画のように、「自然環境の保全」の一つとして、人と野生鳥獣との共生、という段階を超えた深刻な問題だ。



これから、党内で集中的に議論し、知事に提言する予定だ。県民の皆さんのご意見を頂き、提言に反映していきたい。(2011/5/25)

自民党で並行在来線問題の勉強会

党の調査会で並行在来線問題の勉強会を行った。

住民の通勤、通学の交通手段である北陸線を如何にして安定的に運行するか、その検討に残された期間は短い検討項目は実に多い。①国、隣接県、J R との協議、②資本金等や県・市町村・民間の出資割合、③運行体制や組織要員の具体化、④収支予測の精査、⑤新駅設置可能性調査等々。自民党としてタイムリーに県に意見を提言していかなければならない重要課題だ。(2011/6/15)



MOA議連は、統合医療や情操教育、食育を推進します

MOA議連と明社会合同定例会が開催された。両団体は健康な地域社会の建設という共通の目的に向かって相互補完しながら取り組んでいる。

私は、MOA美術館全国児童作品展の地元朝日町開催に関わると共に、今後、統合医療の推進や健康都市プログラムの推進に取り組みたいと思う。特に、統合医療は、人を全人的にとらえ、「病気の治



療とともに、予防と健康増進を目指す」「本人の自然治癒力を生かす」「生活習慣の改善をサポートする」という患者中心の医療であり、和漢医薬に伝統と実績のある富山県は推進可能性が高いと思う。(2011/6/21)

進化する富山県議会 ―新たな試み―

県議会の新幹線・総合交通対策特別委員会は、7月1日、県内の交通事業者5企業を参考人招致し、当該企業の現状と課題、北陸新幹線や並行在来線との関連等について陳述を聴き質疑を行った(次回は7月6日)。富山地方鉄道、富山ライトレール、万葉線などの企業体も、地域の公共交通機関としての使命を果たすべく経営努力をしつつ、来る北陸新幹線開業を如何にビジネスチャンスとするか模索・検討中というところであった。

私は、J R西日本金沢支社の盛岡次長に並行在来線への支援・協力の方針、特にJ R西日本保有の鉄道資産の並行在来線運営主体への無償譲渡についての考え方を質問した。簿価譲渡が基本との回答であったが、これは、今後の最重要課題の一つである。

また、富山地方鉄道の川岸社長に、並行在来線の運営に参画する意思について質問した。現時点ではその考えは無いとの回答であったが、私は、ICカード導入等、並行在来線との結節の向上を図るうえにおいてもビジネスチャンスと捉え、参画は大いにありうると思う。

参考人質疑に引き続き、8月には、県議会が初めて議場から出て、高岡で政策討論委員会を開催する。議会も進化を続けています。(2011/7/2)

統合医療、リハビリ治療、小水力発電の調査活動

自民党所属県議は5つの部会に分かれ、日々、政策づくりの研修や調査に取り組んでいる。私は、福祉環境部会に所属し、7月11日から13日にかけて、東京都、千葉県、山梨県を訪問し、統合医療、リハビリ治療、小水力発電について学んできた。



【統合医療】東京療院(港区高輪)を訪問し、自然食、フラワーセミナー、岡田式浄化療法等を体験し、鈴木清志療院長から人間に内在する自然治癒力を高める統合医療の今日的意義について話を聴く。国の医療制度の壁があるが、統合医療の考え方を取り入れた「富山式健康医療モデル」を構築する必要性を思った。

【リハビリ治療】船橋市立リハビリテーション病院を訪問し、石川誠医師・理事長から、当病院の基本理念を聴く。病院入り口が開放的で丁度週1回のミニコンサート中であった。また、医師も看護師も白衣ではなく他のスタッフ同様カラーシャツであった。これは、病院の香りを無くし入院患者に病人ではないという意識付

けのためにとの事。また、一日も早い在宅復帰を目指す徹底したチームアプローチの実施やプロの料理長と管理栄養士による充実した食事献立等は、これから県が計画する高志リハビリ病院の再整備に大変参考となった。

【小水力発電】早月川小水力発電事業への市民出資を募集するおひさまエネルギーファンド(株) (中野区) 及び山梨県都留市の小水力発電所を訪問し取り組みを学ぶ。
(2011/7/14)

新川地域の共通課題に取り組む

新川2市2町一朝日町、入善町、黒部市、魚津市一は、県東部の広域行政エリアであり共通する課題が多い。その共通課題に結束して事に当たろうという目的で、平成4年、当時は宇奈月町が合併前で、2市3町の首長5人、議会議長5人、県議6人の16人で、新川地域推進協議会を組織し今日に至っている。現在、私が会長を務めており、7月19日に今年度の総会を開いた。



大きな議論となった事の第1点は、全く進展しない富山・長野直結道路(トンネル)構想の今後の進め方、第2点は、広域消防体制の黒部市離脱の経緯について。建前でなく本音をぶつけ合った。そこから新たな展開が生まれるきっかけとなるかも知れない。また、新たな課題は、①26年度に迫った並行在来線の運行問題、②魚津断層帯の調査と津波対策、③再生可能エネルギーの導入支援など。継続課題は、①医師不足などの地域医療の充実、②海岸、道路、河川などのハード整備、③新川地域の観光振興など。これらの切実な住民課題について、来る8月30日、石井知事に対し、当協議会として要望・提言活動を行うこととしている。

首長、議長、県議の14人で構成する当協議会が、新川地域の発展と地域住民の幸せを願い、今後一層の責任を果たしていかなばと思う。
(2011/7/20)

農業のプロの皆さんとの意見交換会

私が所属する自民党農業問題調査会は、7月26日、県農業法人協会(会長:鍋嶋太郎氏)、県企業稲作経営者協会(会長:金田久志氏)の皆さんと23年度の意見交換を行った。



多岐に亘る問題提起が活発になされた。

- ① 福島原発事故を原因とする放射性物質による農作物汚染の拡大懸念や風評被害対策について
- ② 戸別所得補償制度の是非について
- ③ 鳥獣被害防止対策の強化とイノシシ特区モデル事業の提案について
- ④ 米の先物取引の試験上場の是非について
- ⑤ 野菜生産の拡大に真剣に取り組む「個別経営体」に對

- する支援策の強化について
- ⑥ 県産農産物の学校給食への使用推進とその課題について
- ⑦ 農業後継者の育成確保のための普及指導員の充実や農業大学校の必要性について

さすがに、農業を生業としておられる皆さんは、本県と日本の農業の将来を真剣に考えておられる。とても有意義な意見交換であった。

調査会は、これらの意見を基に、更に、現地視察を経て、石井知事に県農業施策の提言を行う予定。

(2011/7/27)

黒部峡谷に新たな魅力を

私が会長を務める県東部地域産業活性化議員協議会は、7月26日、石井知事に、「黒部峡谷に関する要望」と「北アルプス横断道路構想に関する要望」を行った。



黒部峡谷が、近く到来する新幹線時代においても、魅力ある観光地であり続けるには県が真剣に取り組むべき課題がある。無論、民間事業者が最善の努力をすべきことは当然の事として。

【要望項目】

1. 樺平や鐘釣において新たな観光スポットの造成
2. 奥鐘橋や猿飛遊歩道、祖母谷方面道路の安全対策
3. 新緑や紅葉の魅力を無くする害虫対策

知事は、関係省庁に働きかけるなど積極的に対応すると述べられた。富山県の観光の将来を左右すると言えるこの問題は、知事の下、関係部局からなる「黒部峡谷の魅力アップを図るプロジェクトチーム」を組織し取り組む姿勢が欲しい。

(2011/7/27)

北陸電力志賀原子力発電所を視察

8月5日、自民党県議会危機管理・防災対策等調査会は石川県の北陸電力志賀原子力発電所を視察した。



3月11日発生の大震災と大津波により大ダメージを受けた東京電力福島第一原発の重大事故は、地元福島県が最も深刻な状況にあることに加え、高濃度の放射性セシウム汚染問題が日本全国に測り知れない影響を及ぼしている。

そのような中、志賀原子力発電所を視察し津波に対する安全強化策について現場での説明を聞いた。ポイントは、「電源確保」、「除熱機能の確保」、「敷地内への浸水防止対策」について、4月中に実施済みの安全対策と今後2年程度の更なる対策である。津波による浸水防止対策としては、4mの防潮堤を800mに亘り構築することにより防潮堤の上部が標高15mとなる計画を設計中とのこと。

ところで、志賀原発の1、2号機とも再稼働の目途が

立っていない現状。菅首相の脱原発発言により更に再稼働が遠のいたようだ。

CO₂ 排出抑制政策、わが国の産業政策、国民生活の安定、そして徹底した安全対策など、多くの観点から冷静な議論が必要な今後の原発政策だが、突然の「脱原発」発言は無責任極まりない。
(2011/8/5)

有機農業の実践現場を視察

MOA 議連は、8月19日、南砺市で自然農法や有機農業に取り組んでおられる3軒の農家を訪ねた。最初に訪ねた奥野平喜知さんは、小規模ながら信念をもって大豆やさつまいも等を栽培しておられた。実に柔らかい土壌に驚いた。「土づくり」こそ命というこだわりを感じた。次に訪ねた坂井晋さん夫妻は、若く夢を持って、多品種の有機野菜・果物栽培や6次産業化に挑戦しておられた。最後に訪ねた山下豊作さんは、実に楽しそうに大規模な自然農法稲作に取り組んでおられた。収量を落としてでも食味を確保するプロ農家だ。3農家とも、食味や安全性という消費者のニーズに応えその心を掴むのに地道な努力をしておられる。また、「越中土徳の会」の蓑口理事長は「今、富山の米、野菜は全国から着目されつつある」と頼もしい言葉を発しておられた。



今回の視察と意見交換により、MOA 議連として、①経済同友会等に有機農産物購入のアピール、②有機農業の公的な技術指導體制の整備、③食育を通して有機農産物の普及啓発等の取組み等、有機農業推進の後押しをしていかねばと強く思った次第です。
(2011/8/19)

県議会の更なる活性化を目指して

私が委員長を務める議会運営委員会は、8月22日、23日に、群馬県議会と長野県議会を訪問し議会改革の取組みについて研修した。富山県議会でも導入を検討すべき事項が幾つかあり、意義ある視察であった。



【群馬県議会の注目すべき改革点】

- ① 平成17年から本会議において「一問一答方式」を導入していること。
——富山県議会は一括質問方式。県民に分かりやすいという点では、群馬方式がベターであろう。
- ② 平成22年から決算特別委員会における、審査、総括質疑、認定を9月議会中に完結していること。しか

も、全議員を構成員とし、常任委員会単位で分科会を置き審査している。

——富山県議会における決算審査は、9月議会に特別委員会を設置し、実質審査は10月から11月に行い、11月議会において認定している。群馬県のように9月議会において議決することにより、決算審査の結果を翌年度の予算編成により反映できるのではないか。

【長野県議会の注目すべき改革点】

- ① 平成15年から「こんにちは県議会です」という名の下、県議会が各地に出向き「県政報告会」と「ふれあいミーティング」を実施していること。
——県議会の活動が県民の目に直に見えるという点で本県も何らか考えるべきであろう。
- ② 田中知事の時から、本会議において、「分割質問方式」「一問一答方式」を導入していること。

(2011/8/24)

新川地域の2つの大きな課題 —医療問題と有害鳥獣問題—

新川地域推進協議会は、8月30日、石井知事はじめ関係部局に要望活動を行った。2011/7/20付の「活動報告」に掲載した項目が要望の主な内容である。



その中で、医療問題と有害鳥獣問題は、地域住民の安心、安全、農業生産意欲に関わる大きな課題である。

【医療問題】

- ① 新川医療圏における初期急患センター設置問題
初期急患センターは、富山、高岡、砺波の各医療圏にあるが、新川医療圏にはない。設置には、地元医師会の理解の下、地元開業医の協力が不可欠な事等、クリアすべき条件が幾つかある。
- ② 医師、看護師の確保
あさひ総合病院が特に深刻な中で、県、町等各機関で懸命な取り組みがなされている最中。

【有害鳥獣問題】

- ① イノシシ被害の急増にどう対処するか深刻な問題
有害鳥獣による平成22年度の農産物被害額は1.2億円、その3分の1の4千万円がイノシシ被害、5年でなんと15倍の急増。
- ② 隣県との連携した取り組みの必要性
イノシシ、サル等は県境に関係なく移動する。隣県が連携して取り組まない事には効果がない。

(2011/8/30)

まさかず かくま正一通信 (No.16)

発行日 平成23年9月

発行者 熊正会・自由民主党富山県議会議員会

事務所 〒939-0742 下新川郡朝日町沼保1173-1 TEL 0765-82-1333 FAX 0765-82-2113

正一メールアドレス masakazu@kakuma.net

©「かくま正一通信」は資源保護のため再生紙を使用しています。